

こやま かみ
佐久市小山の神B遺跡現地説明会資料

（財）長野県文化振興事業団 長野県埋蔵文化財センター

電話 026-293-5926

1 遺跡の位置

小山の神B遺跡は、佐久市^{こみやま}小宮山に所在します。遺跡は、蓼科山の東北麓に伸びる尾根上に立地しています。尾根の南東側は緩やかに傾斜しており、その日当たりが良い斜面に縄文時代のムラが営まれていました。遺跡の北側は標高が 735m と最も高く、その先には浅間山が一望できます。遺跡南東側は標高 725m で、北西側との高低差は 10m あります。



小山の神B遺跡遠景 国道 142 号線方面より

小山の神B遺跡では、前年までに佐久市教育委員会による調査がなされ、隣接する南側で縄文時代の土器片や黒曜石の破片が発見されていきました。また、昨年^{こみやま}の長野県教育委員会の試掘調査により、遺跡範囲が尾根頂部まで広げられました。

発掘調査は、8月初旬から開始され、当初は南北方向の8本のトレンチ（幅 1.5～2 m の溝状の調査区）による調査を行ない、調査区南東側で縄文時代の竪穴住居跡が発見されたことにより（SB01）、全体を面的に調査することとなりました。

2 これまでの発掘調査で見つかったもの

今年度の調査対象面積は 2,900 m² です。今までに、縄文時代のムラ、および、近世以降の土坑群などが、地表下 20～50cm の深さから見つかっています。

○縄文時代前期のムラ

今から約 5,500～6,500 年前の縄文時代前期の竪穴住居跡が、前期初頭と前期後半の2時期に分かれて、



日当たりのよい南東斜面の調査風景

8軒発見されています。平均気温が現在より2℃ほど高く、日本列島が最も温暖だった頃のムラです。竪穴住居跡の周りには、ドングリなどの貯蔵に使用されたと考えられる土坑（袋状土坑を含む）も見られ、豊かなムラの生活が想像できます。ただ、山の上のムラということで表土が薄く、すべての住居跡は後世の耕作により削平され、斜面下方の南東側の壁が流されてなくなっていました。



縄文時代前期後半 SB01 の調査風景(壁を出す)

小山の神B遺跡の北東、一つ北側の尾根上には、6軒の竪穴住居跡が発見された縄文時代前期中葉の^{うしろざわ}後沢遺跡があります。この遺跡を含めても、今までに佐久地域で縄文時代前期のムラが発見された例は、数えるほどしかありません（旧佐久市内では3例目）。その意味で、今回の調査は、佐久地域の縄文時代前期のムラの様子を解明する重要な調査になると考えています。

○縄文人の道具箱

小山の神 B 遺跡では、縄文時代前期の人々が使用した多くの道具類が出土しています。

まず、縄文土器ですが、縄文時代前期初頭（今から約 6,500 年前）の土器、そして年代が 1,000 年ほど下って、前期後半（今から約 5,500 年前）に位置づけられる土器が出土しています。縄文土器は小さな破片ばかりですが、竪穴住居跡、土坑の時期を決定する重要な資料になります。



竪穴住居跡 SB08 の壁際に土器片



縄文時代前期初頭の土器片



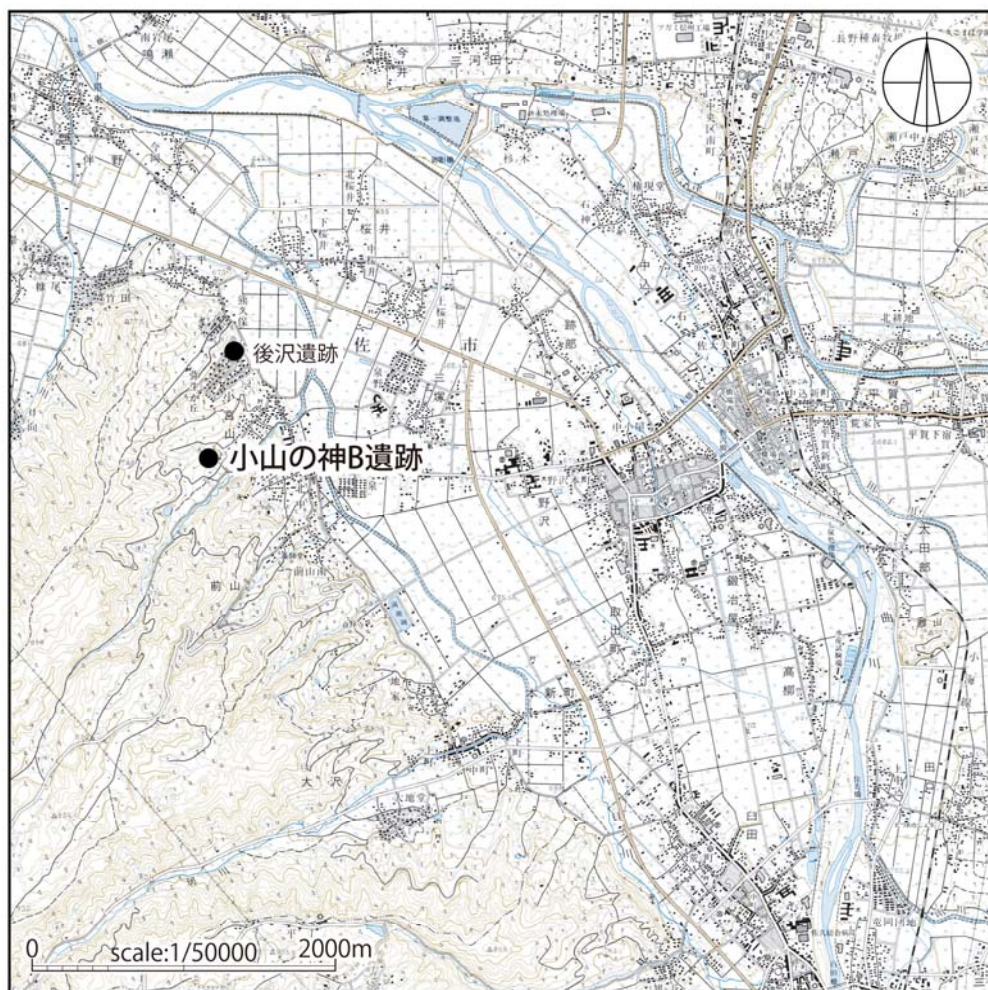
縄文時代前期後半の土器片

石器類は、調理道具である安山岩や砂岩製の石皿、磨石、加工道具である黒曜石やチャート製の石匙（削る、切る道具）、石錐（孔をあける道具）が、竪穴住居跡や土坑から見つかりました。黒曜石の石鏃は、矢の先につけたもので、縄文人の大切な狩りの道具でした。さらに、土を掘る道具である打製石斧や、木を切ったり削ったりする磨製石斧など、縄文人が使った多くの道具が発見されました。

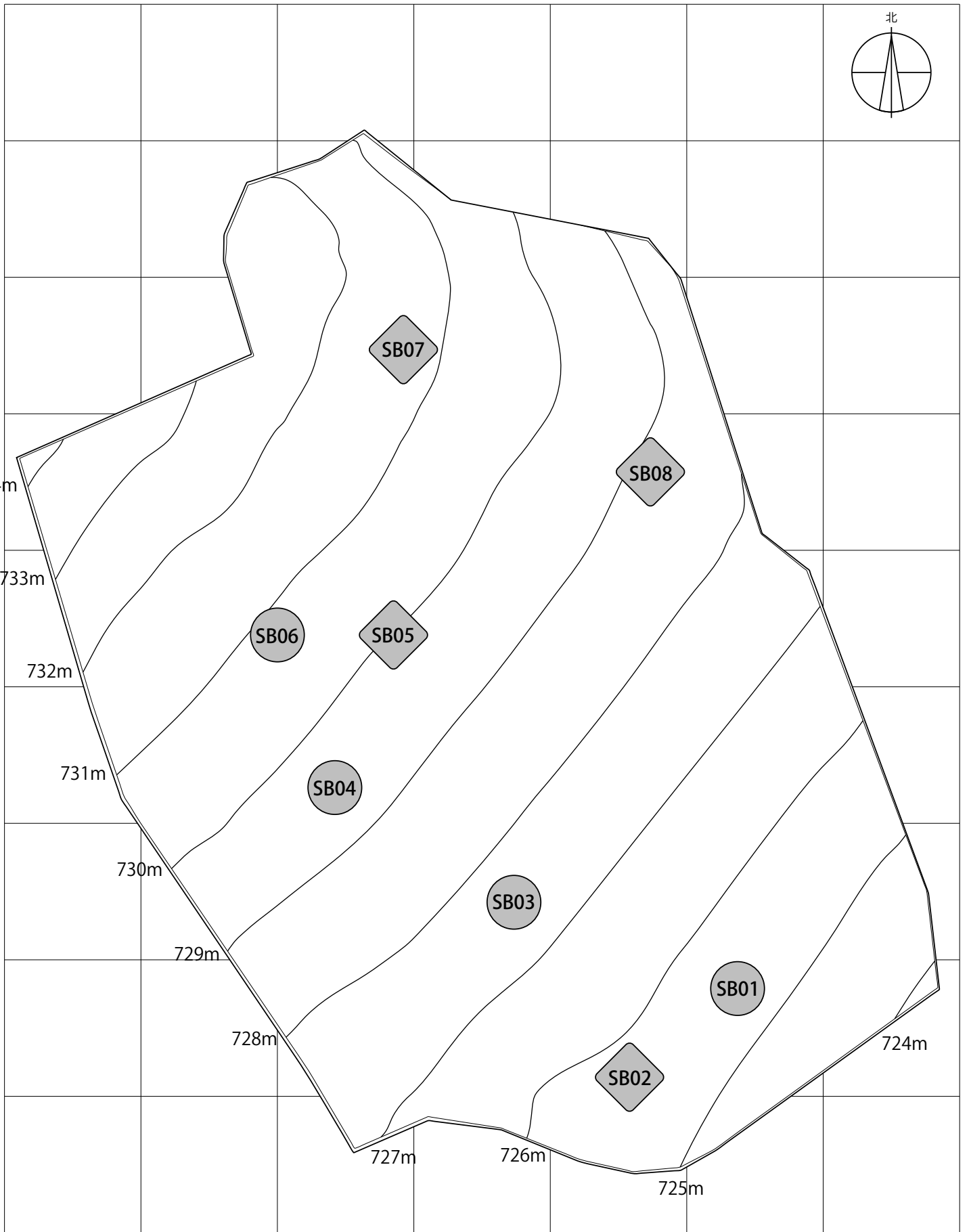
また、この遺跡は、ムラ全体に多量の黒曜石の破片が見つかるのが特徴です。なかには、不定形に打ち欠かれた石器も多く含まれています。これらの黒曜石は、和田峠、霧ヶ峰、八ヶ岳方面から運ばれてきたと思われませんが、一つの場所から運ばれてきたのでしょうか。これからの産地分析鑑定で、明らかにされるのが楽しみです。



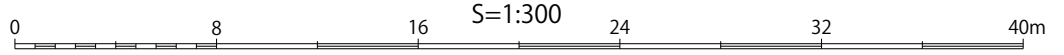
土坑から出土した石匙



遺跡位置図



● □ : 豎穴住居跡



遺構配置概略図